

**第 15 回 日本免震構造協会賞**  
**－ 2014 －**

**一般社団法人 日本免震構造協会**

# 第15回日本免震構造協会賞 - 2014 -

第15回日本免震構造協会賞は、右の8件に決定した。

## 表彰制度の目的

免震構造の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した者並びに建築物を表彰することにより、免震技術の確実な発展と安全で良質な建築物等の整備に貢献していくことが本協会の表彰制度の目的である。

## 表彰の対象

功労賞は、多年にわたり免震構造等の適正な普及発展に功績が顕著な個人に、技術賞は、免震建築物等の設計・施工及びこれらに係る装置等に関する技術としての優れた成果を上げた個人、法人及び団体に、作品賞は、免震構造等の特質を反映した優れた建築物の実現に携わった個人、法人及び団体に、普及賞は、免震建築物・免震啓発活動・免震に係わる装置等により免震構造等の普及に貢献した個人、法人及び団体に贈る。

## 表 彰

2014年6月11日

一般社団法人日本免震構造協会通常総会後

## 一般社団法人日本免震構造協会表彰委員会委員

深澤義和（委員長） 安達 洋 丑場英温  
川口健一 篠崎 淳 細澤 治 真部保良  
渡邊眞理

## 審査経過

本年度の功労賞は、多年にわたり免震構造等の適正な普及発展に功績が顕著である寺本隆幸氏を選考した。

技術賞には4件の応募があった。4件ともヒアリングを実施し、「東北地方太平洋沖地震を経験した免震U型ダンパーの残存疲労性能の調査及び残存疲労性能評価法の確立」を免震構造等に関する技術としての優れた成果をあげたものとして技術賞に選考した。また、普及賞に応募のあった「岐阜市民病院」についてはヒアリングを実施し、これも優れた成果を上げたとして技術賞に選考した。

作品賞には12作品の応募があった。すべての応募作品について現地調査、ヒアリングを実施し、「東京駅丸の内駅舎保存・復原」「清水建設本社」「中之島フェスティバルタワー」の3作品を免震構造等の特質を反映した優れた建築物として作品賞に選考した。

## 選考結果

第15回日本免震構造協会賞受賞は下記の8件である。

### I 功労賞

- 1) 寺本隆幸

### II 技術賞

- 1) 東北地方太平洋沖地震を経験した免震U型ダンパーの残存疲労性能の調査及び残存疲労性能評価法の確立  
新日鉄住金エンジニアリング株式会社

小西克尚	川村典久
株式会社日建設計	村上勝英 染谷朝幸
東京工業大学	山田 哲

- 2) 「岐阜市民病院」免震・制振技術を活用した特殊工法による病院の改築

株式会社山下設計	早野裕次郎	立川 淳
	朝倉純一	沢崎詠二

### III 作品賞

- 1) 東京駅丸の内駅舎保存・復原

東日本旅客鉄道株式会社	東京工事事務所	鎌田雅巳	金森勇樹
株式会社ジェイアール東日本建築設計事務所	田原幸夫		
株式会社東京建築研究所	蓮田常雄		
鹿島建設株式会社	金丸康男		

- 2) 清水建設本社

清水建設株式会社	小川哲也	竹内雅彦	中川健太郎
	島崎 大	金子裕介	

- 3) 中之島フェスティバルタワー

株式会社朝日新聞社	曾根宏司	
株式会社日建設計	吉田 聡	岡田 健
近畿大学	阿波野昌幸	
株式会社竹中工務店	山本啓介	

### IV 普及賞

- 1) 木造建物の免震レトロフィットー製粉ミュージアム本館ー
- 2) 御茶ノ水ソラシティ

(敬称略)

普及賞には2件の応募があったが、そのうち、岐阜市民病院については、前述のとおり技術賞に選考した。また、技術賞応募案件より「木造建物の免震レトロフィットー製粉ミュージアム本館ー」については、免震構造等の普及に貢献したとして普及賞に選考した。さらに、作品賞に応募のあった「最先端技術の統合で実現した都市型再開発建物の設計および施行（御茶ノ水ソラシティ）」についても普及賞にふさわしいとして選考した。

本年度は作品賞12件をはじめとして多くの優れた業績の応募があった。今後とも多数の応募を期待している。

(深澤義和)



寺本隆幸氏は、協会の設立者で、創立時より現在にいたるまで 20 年間にわたり、免震のパイオニアとして免震構造の普及・推進に尽力され、日本免震構造協会の活動と発展に貢献されました。その功績は極めて顕著であり、ここに、功労賞を贈ることになりました。

### 主な経歴

1966 年日建設計入社、新宿高層ビルの草分け的存在でもある、新宿住友ビル（三角ビル）などを構造設計し、31 年間、設計者として活躍された。1997 年からは、東京理科大学の教授になられ、教鞭をとられた。

### 主な構造設計作品

- 朝日東海ビル（29 階）
- 新宿住友ビル（52 階）
- 新宿 NS ビル（30 階）
- 千葉ポートタワー（125m）
- 日本電気本社ビル（43 階）

### 主な功績

規格化・標準化委員会委員長として、「JSSI 規格」「免震建築の設計とディテール」を発刊された。「JSSI 規格」は、後の免震装置の技術基準の基となりました。

「免震建築の設計とディテール」は、建築家に変大好評で、多くの免震建築物に採用されています。

また、長年にわたり理事として、性能評価／材料性能評価委員会委員長としてもご尽力いただきました。寺本氏は、理論派で幅広い人脈があり、“熱い情熱”をもって我が国のみならず海外でも実績を残され、世界の地震国での免震構造技術の発展と普及・推進にも尽力されました。



竣工 30 周年を迎えリニューアルした新宿 NS ビル  
(設計した建物がこのように元気だと嬉しいものである。)



設計協力したインドネシア・スマトラ島・パダンの基礎免震建物  
(手前のスロープは建物に接しているため、切り離しを要請してきた。)



インドネシア・スマトラ島・パダンの免震構造のホテル  
(インテリア工事中)  
(アイソレータをガラス越しに見せているおおらかさが良い。)

# 東北地方太平洋沖地震を経験した免震U型ダンパーの 残存疲労性能の調査及び残存疲労性能評価法の確立

新日鉄住金エンジニアリング株式会社：小西克尚、川村典久  
株式会社日建設計：村上勝英、染谷朝幸  
東京工業大学：山田 哲



東北地方太平洋沖地震を経験した免震U型ダンパー  
(建物：石巻赤十字病院、撮影：新日鉄住金エンジニアリング)

## 概要

免震U型ダンパーは、品質の高い鋼材を加工した鋼製ダンパーである。鋼材は温度、载荷速度や経年に対しても安定した性能を示すため、これらへの各種依存性の少ないダンパーであることが知られている。免震U型ダンパーは鋼材の塑性化により地震エネルギーを吸収する。その疲労性能が複数回の地震に対するエネルギーを吸収できるよう開発されている。既往の研究では、一定振幅下の破断回数と振幅との関係が評価されている。一方、これまで大きな地震を経験した免震建物からダンパーを取り出して残存疲労性能を検証した調査はされておらず、また、地震を経験したダンパーの残存疲労性能を推定する手法についても確立されていなかった。今後、東海・東南海・南海地震のように非常に広域に大きな揺れを伴う地震や、首都直下地震など多くの免震建物が存在する地域を中心とした地震が発生したときに、速やかに復旧するにはダンパーの継続使用を判定するための残存疲労性能評価法が不可欠であると考え、東北地方太平洋沖地震を機に本技術の開発を行うこととした。

## 選評

一度大きな地震を経験した後の建物は、あと何回くらい大きな地震に耐えられるのであろうか。地震活動が活発になり、震度5を超えるような地震を経験することが決して珍しくなくなった近年の日本において、履歴依存型の対地震構造の残存性能を知ることは重要かつ切実な問題である。

本技術は、免震層に設置されている鋼製U型ダンパーに対し、地震経験後の損傷評価と残存疲労性能評価法の確立を目的としている。予め得られている疲労曲線を活用することで、①最大変形を用いたVEスペクトルによる方法、②応答解析による方法、③野書き記録による方法、④形状変化比による方法を提案している。それぞれの方法的妥当性評価に当たっては、東北地方太平洋沖地震を経験した石巻赤十字病院から抜き取った実際のダンパー材に対して疲労実験を行い、実際の残存疲労性能を求め、提案した評価法を適用し、それぞれの方法を評価している。特に、形状変化に注目した方法は、外観が変化するこの種のダンパーの特徴を活かしており、簡易に残存性能が判断できる方法として有用である。(この方法は、既にJSSI免震建物の維持管理基準2012では、一次判定として作用されている。)

このような技術は、履歴依存型構造の残存性能の「見える化」の先駆けととらえることができ、今後、様々な分野で意識されていくことを期待したい。なお、試験片を抜き取った石巻赤十字病院は2011年の本会特別賞を受賞を受賞しているが、賞の性格は全く異なるので問題にはならない。  
(川口健一)

## 技術内容

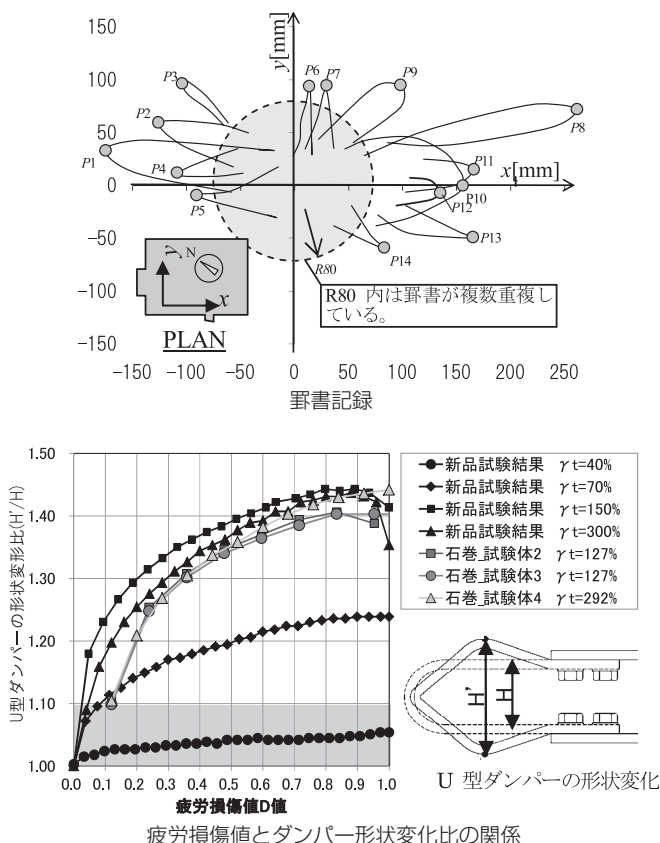
東北地方太平洋沖地震を経験した石巻赤十字病院など宮城県の3つの免震建物を対象に、免震U型ダンパーの残存疲労性能調査を実施した。地震を経験したU型ダンパーを取り出し、疲労試験を実施した。その結果、概ね10～15%程度の疲労損傷度であり、いずれも継続使用に関して問題がないことを示した。

次に、疲労損傷評価を4つの手法について検討をした。

解析的手法として、近傍の観測地震動を基に(1)エネルギー速度を用いた評価法、(2)時刻歴応答解析を用いた評価法、さらに(3)免震層に設置された野書板の野書記録から推定する方法について示した。これらの評価法は、その有効性が残存疲労性能調査の結果と比較することで示されており、JSSI免震建物の維持管理基準2012における設計者が主体となって行う2次判定において有用な手法といえる。

また、(4)ダンパーの形状変化に注目した手法を検討した。これは地震を経験したダンパーの抜取疲労試験と新品の疲労試験を蓄積することで確立した。JSSI免震建物の維持管理基準2012において、一次判定として採用されている。

本技術は、U型ダンパーが導入された建物には汎用的に適用できること、構造設計者・メーカー技術者に限らず、免震建物点検技術者など幅広く利用できること、今後懸念されている広範囲に渡る大規模地震が発生した際に、地震を経験した免震建物の早期の復旧に大いに貢献するものと期待できる。



# 「岐阜市民病院」免震・制振技術を活用した特殊工法による病院の改築

株式会社山下設計：早野裕次郎、立川淳、朝倉純一、沢崎詠二



建物外観（撮影：SS 名古屋）

## 概要

最新の高度医療への対応などを目的として改築の必要性に迫られる病院は多いが、市街地に建つ病院では敷地内に増築するスペースがなく、また仮設病棟建設に多額の費用を要するなどの理由により、現地建替えが困難な事例が多い。

狭隘な敷地に建つ岐阜市民病院では、敷地内に新たに建設できる十分なスペースがない中で、既存病棟を跨ぐ形で新病棟を建設する特殊な工法により理想的建物配置の改築を実現した。免震構造により竣工後の安全性を高めるとともに、建物を使いながらとなる施工時においても免震、制振技術を活用することで十分な安全性を確保している。

## 選評

病院の建て替えにおいて、365日フル稼働したまま入院患者も仮設病棟に移動することなく新病棟を建設することは理想である。特にその病院が地域医療の基幹施設であれば尚更のことである。しかし、現位置での建て替えのアイデアは沢山あるが残念なことに多くの病院において施工過程での機能維持や施工手順等の制約で実現に至っていない。

その中でこの岐阜市民病院は非常によく計画され、洗練された設計及び施工の技術を用いた現位置での建て替えである。病院機能を維持しながら既存病院の上空に新病棟の上層部を建設し、上層部完成後入院患者を移動して病院下層部の工事を行うという難しい手順を実現している。

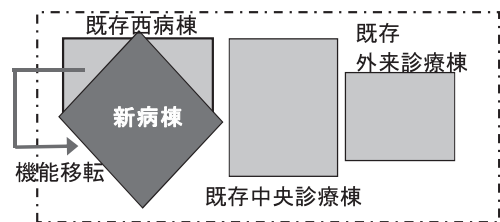
この計画を可能にした技術としてはメガトラス・制振構造により既存病院の跨ぎ架構の変形・耐震性の確保、及び、既存病院の解体後の下層部の新築後の建物の免震化という一連の免制震技術である。

工法と施工手順にマッチした平面計画、断面計画により初めて実現可能な計画であり、現代の最新の意匠・構造設計技術、施工技術を組合せることで実現させた本作品は技術賞に値すると判断した。（丑場英温）

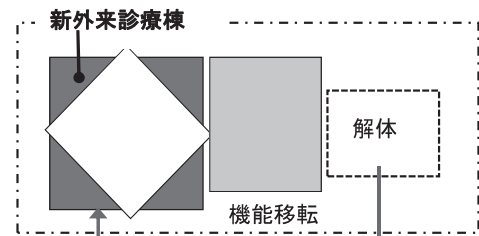
## システム及び特記事項

改築のプログラムは、並列する既存3棟の内中央診療棟（新耐震基準による）を残し、2棟を建て替える計画である。改築の具体的手順を以下に示す。

- ① 既存西病棟の上部に、西病棟を跨ぐ形で新病棟を建てる。この段階では免震層が未完成のため、粘性ダンパー（減衰こま RDT）と鋼材ダンパーによる制振構造とする。
- ② 既存西病棟解体後、免震層を完成させ、制振構造から免震構造へと切替える。この際粘性ダンパーは免震層に移し再利用する。
- ③ 新病棟の下部に新外来診療棟を建てる。免震構造の性状が工事進捗に沿って日々変化するため、多くのパターンでの安全性検証を行った。
- ④ 新外来診療棟への機能移転後、既存外来診療棟を解体し、敷地東側に大きな駐車スペースを確保して改築完了。

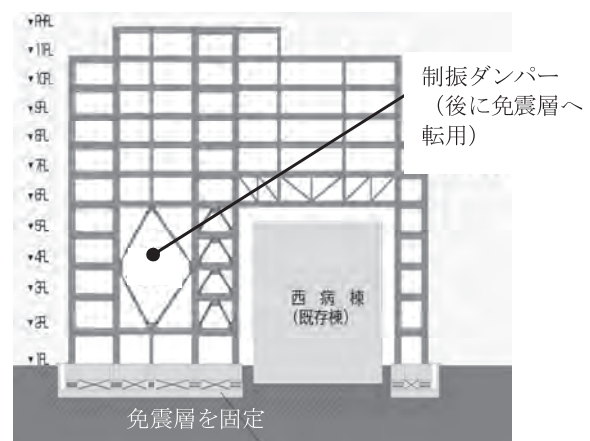


① 新病棟を既存西病棟上部に建設



② 新外来診療棟を新病棟下部に建設

改築手順



1 期竣工時（制振構造）の構造概要

# 東京駅丸の内駅舎保存・復原



丸の内側外観（撮影：株式会社エスエス東京）

建築主：東日本旅客鉄道株式会社  
 設計者：東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 鎌田雅己、金森勇樹  
 株式会社ジェイアール東日本建築設計事務所 田原幸夫  
 株式会社東京建築研究所 蓮田常雄  
 施工者：東京駅丸の内駅舎保存・復原工事共同企業体  
 代表 鹿島建設株式会社 金丸康男

## 免震化した経緯及び企画設計等

重要文化財である東京駅丸の内駅舎は、100年にわたって使い続けられている現役の建築物でもある。本プロジェクトは、重要文化財としての建物を保存・復原しつつ、如何に現代の最先端施設として再生するかが基本的テーマであった。

2階建の鉄骨煉瓦造の既存駅舎に1層増築して創建時の姿に復原したものである。鉄骨内蔵煉瓦壁の構造性能を実験により評価し、大地震時においてもレンガ壁にひび割れを発生させないことを目標に補強量が格段に少ない免震構法による改修を選択した。

## 技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

現存している外壁や鉄骨を可能な限り保存しつつ、戦災で失われた3階部分やドーム屋根を創建時の姿に厳密に復原。さらに建物の保有する歴史的価値を生かしながら、現代の駅・ホテル・アートギャラリーとして安全で魅力的な空間を創り上げ、「保存」と「活用」の両立を実現した。

中央線高架橋が近接していることや、駅舎が335mに及ぶなどの課題を、アイソレーター352台、オイルダンパー158台を設置した減衰効果の大きいシステムを採用することにより克服した。総武線への階段・ESCAは新設地下に取り込み非免震の昇降路とし、ドーム前の渡りには変形分割型の金物を用いて安全性を向上させている。

## 建築概要

建設地：東京都千代田区丸の内1丁目  
 建築主：東日本旅客鉄道株式会社  
 設計：全体統括 東日本旅客鉄道(株) 東京工事事務所  
 建築・設備 (株)ジェイアール東日本建築設計事務所  
 構造 (株)東京建築研究所  
 施工：東京駅丸の内駅舎保存・復原工事共同企業体 (鹿島・清水・鉄建 建設共同企業体)  
 建築面積：9,683.04㎡ 述床面積：42,971.53㎡  
 階数：地上3階(一部4階)、地下2階  
 高さ：約45m  
 構造種別：鉄骨煉瓦造、RC造、一部S造、SRC造、免震構造

## 選評

本事業は1914年に竣工し1923年の関東大震災にも耐えた、日本の建築界そのものを代表する辰野金吾の設計による重要文化財の保存事業である。竣工1914年から100年を迎えるにあたり、当時の構造に対する知見が現在とは異なる中で、当時の設計を否定することなく、いかにこの歴史的建造物を忠実に残すかについて、設計者は苦勞したものと思われる。その解決策として、レトロフィット免震を計画することにより、歴史的構造物を可能な限り残すことに成功している。

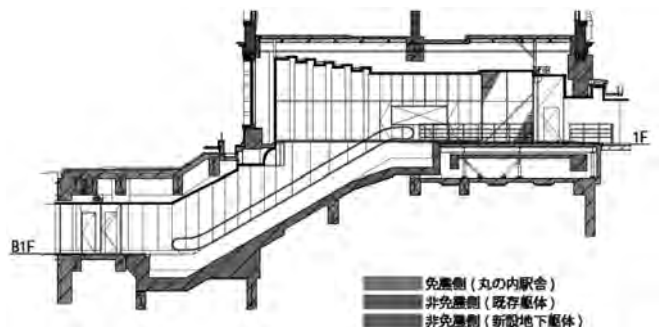
重要文化財は基本的には建築基準法に準拠する必要はないが、一日何十万という旅客が利用する駅舎として、さらにホテル・美術館もある建築物として機能性のみならず耐震性も含め高い安全性を確保しなければならず、既存架構の詳細な調査ならびに性能実験を通して、既存架構の可能な限りの保存と安全性の確保を実現している。

鉄道駅舎として多くの利用客の利便性を損なうことなく工事を進めなくてはならないという困難な状況の中で、現在の耐震性を満たす建築物を構築するための免震耐震改修技術を駆使して具現した本建物は免震協会賞・作品賞にふさわしい作品であると評価できる。

(細澤 治)



改修前後のドーム空間（撮影：株式会社エスエス東京）



総武階段 断面図

建築主：清水建設株式会社 小川 哲也  
 設計者：清水建設株式会社 竹内 雅彦、中川 健太郎、島崎 大  
 施工者：清水建設株式会社 金子 裕介



建物外観

### 建築概要

建設地：東京都中央区京橋 2-16-1  
 建築主：清水建設株式会社  
 設計：清水建設株式会社一級建築士事務所  
 施工：清水建設株式会社  
 建築面積：2,170 m<sup>2</sup> 延床面積：51,356 m<sup>2</sup>  
 階数：地上 22 階、地下 3 階 高さ：106m  
 構造種別：鉄筋コンクリート造、鉄骨造

### 選評

1.6m 間隔に並んだ細い柱が 110m の高さから真直ぐに降りてきて、2 階の大きなプレストレス大梁を隔てて 1 階の太い柱に集約されている。それが、この建物に洗練された落ち着きと安定感を与えている。

地下 1 階と地下 2 階の間に免震層を設けた中間階免震構造を採用している。基準階は、中央コア部を囲う RC コアウォールと外周の PC フレームで構成することにより、執務空間を柱型の一切ない空間（コラムレスオフィス）としている。免震を利用した合理的な構造計画がなされたものと評価できる。

前述の縦方向の細長い柱は、3.2m × 4.2m の格子状の PC パネルによって表現されており、このパネルはアルミキャスト（アルミニウム casting）にコンクリートを打設して一体化し、現場で外周に積み上げて施工している。これにより剛性の高い外殻構造を構築すると同時に耐久性とメンテナンス性に富む外壁を創り上げることに成功している。

この建物の建設にあたって、「ものづくりのプロセスをかたちに」をテーマに掲げ、各所にそれが具現化されている。なかでも印象的なものは、地下 1 階から 2 階までのコアウォールの一面並びに 1 階ピロティの外周柱に施された、杉板本実（ほんざね）型枠を用いた高強度コンクリートの化粧打放し仕上げである。この建物を訪れる人々を強く惹きつけるであろうその年輪模様をテーマに対する意気込みを感じた。（安達 洋）

### 免震化した経緯及び企画設計等

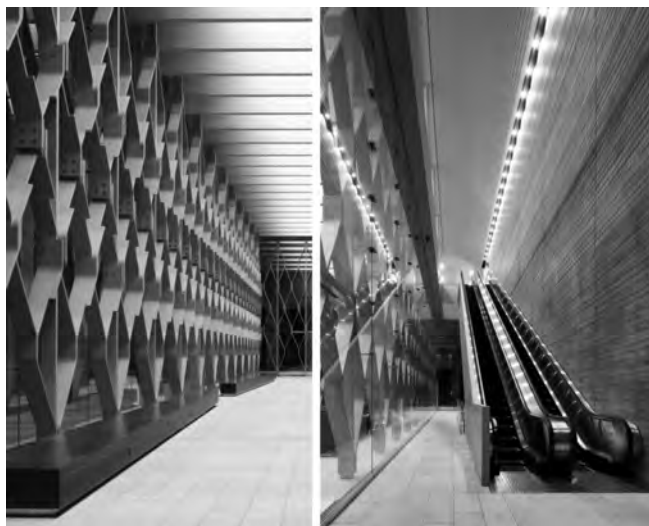
本建物は地域を守る防災拠点としての機能を持たせ、災害発生時には中央区と連携して帰宅困難者を支援する地域防災センターとなるよう計画された。そのため、高さ 100m を超す超高層オフィスに RC 免震構造を採用し、大地震後にも本社機能を維持するばかりでなく、震災対策の拠点となるべく備蓄品を含め災害に対する備えを充実させている。

建物の構造は基準階の中央コア部を囲うように配置されたコアウォールを芯とし、外周の PC フレームを殻として、建物を内と外から支える計画である。コアウォール+外周 PC フレームによる高剛性の上部構造を採用することで、超高層ながら上部構造が剛体的挙動を示す、免震効果の高い建物の実現を目指した。

### 技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

新しい本社の建設にあたっては、「ものづくりのプロセスをかたちに」をテーマとし、完成物のみならず設計から施工にいたるプロセスをかたちとして建物に刻むこと自体が、次世代のものづくりに向けたメッセージとなると考えた。

アルミキャストに覆われた外装の PC フレームや建物内部のコアウォール、低層部の本ざね型枠によるコンクリート化粧打放し、エントランスホールなどは躯体が形づくられるプロセスをそのまま建築として表現したものであり、この建物の特徴付ける大きな要素であるが、いずれも免震構造との組合せにより実現した取り組みばかりであり、数多くの実験・技術的検証を繰り返して現在の形に結実している。



1 階エントランス

コアウォール本実打放し  
 （撮影：すべて(株)PD システム）

建築主：株式会社朝日新聞社 曾根 宏司  
 設計者：株式会社日建設 吉田 聡、岡田 健  
 近畿大学 阿波野 昌幸  
 施工者：株式会社竹中工務店 山本 啓介



建物外観（南面）  
 [撮影：古田雅文]

ホール内観  
 [撮影：竹中工務店写真部]

## 建築概要

建設地：大阪市北区中之島2丁目  
 建築主：株式会社朝日新聞社  
 設計：株式会社日建設  
 施工：株式会社竹中工務店  
 建築面積：5,725.26㎡ 延床面積 145,602.26㎡  
 階数：地上39階、地下3階 高さ：198.96m  
 構造種別：中間層免震構造 S造／SRC造／RC造

## 選評

大阪の都心である中之島に、大空間を要する2700席規模の音楽ホールと、センターコア型のオフィスという、全く異なる用途・空間・構造を、免震層を含む大胆な構造切替によって積層させた超高層複合施設である。

本計画の傑出する点は、異なる用途を積層させる構造的な解決方法と、建築的な空間構成に強い一体感を感じる点である。特に下部（ホール）と上部（オフィス）をつなぐ構造切替部分に設けられたスカイロビーにそれが顕著に現れている。メガトラスと呼ばれる巨大スケールの構造体が、開放感の高い空間を生み出しており、その外周のデッキは水都大阪を体感できる土佐堀川を望む魅力的な都市空間を創出している。

このプロジェクトが実現している超高層複合施設のあり様は、高度利用を求められる都心エリアにおいて、多様で魅力的な都市活動をうみ出すプロトタイプのひとつを示していると言えるだろう。

また免震層をまたぐシースルーエレベータのガラスカーテンウォールの変位追従機構や、細い柱を細かく配置したオフィスの外周構造（「アウトチューブフレーム」と呼ばれる）、メガトラスの鉄骨仕口の意匠的な処理等、細部にいたるデザインの創意に溢れている事も付記しておきたい。  
 （篠崎 淳）

## 免震化した経緯及び企画設計等

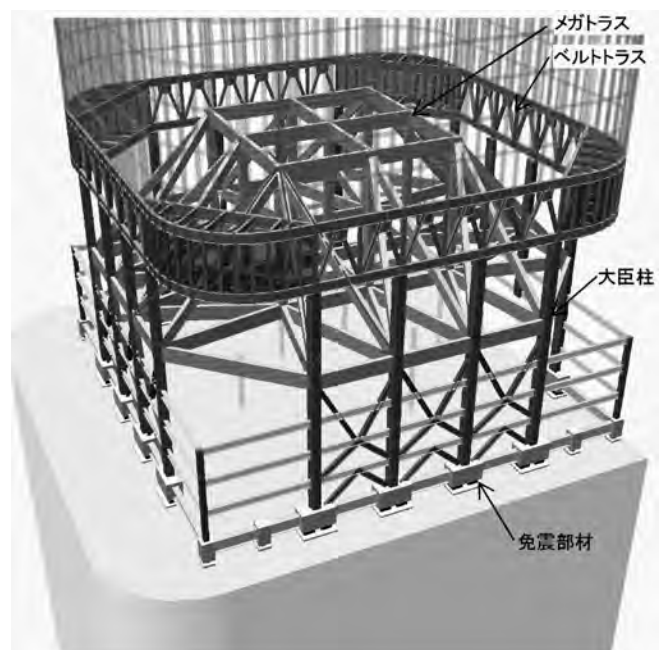
本建物は、2700席規模の本格的音楽ホール（フェスティバルホール）、床面積2万㎡の朝日新聞大阪本社、および床面積8万㎡のセンターコア型テナントオフィスを組み合わせて計画された高さ200m級の超高層複合建物である。各用途・機能には高い性能が求められ、かつ敷地の制約上これらを縦積みする必要があった。さらに、これらの与条件を高い耐震性能とともに実現することが求められた。

高層階の荷重をホール外周部に伝達する軸力乗換機構（巨大トラス）、異なる用途・構造形式を柔らかく接続する中間層免震により、各用途の建築性能を高く保ちつつ縦積みし、高い耐震性能で実現している。

## 技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

免震層に設置する免震部材や巨大トラスを構成する各部材は、これまでにない極めて大規模なもので、精緻な設計や、端正な意匠を現実化する細部の工夫、設計監理施工が一体となる協力体制により完成している。

巨大トラスは免震層上部の重量を建物外周部に集約することで、免震構造としての性能を最大限に高め、中間層免震は高層階に作用する地震力を小さく抑えて巨大トラスの地震時安全性を高めるなど、2つの技術が相互に影響しあい建物の構造性能を高めることに寄与している。



巨大トラスと中間層免震概念図



# 第 15 回協会賞 普及賞

## ■受賞者と受賞理由

### □木造建物の免震レトロフィットー製粉ミュージアム本館ー

清水建設株式会社

製粉ミュージアム館は企業文化遺産として位置づけられ、可能な限り創建当時の姿を残すため、曳家工事を含む木造建物の免震レトロフィットなど様々な技術を駆使している。

歴史的価値がある本建物の内外観をそのまま保存することに成功した事例で、普及賞に値する。



製粉ミュージアム館全景



御茶ノ水ソラシティ全景

### □御茶ノ水ソラシティ

大成建設株式会社

御茶ノ水ソラシティは都市型再開発における敷地の制約条件等の問題を、中間階免震構造、超高強度材料の採用及び既存杭の再利用等を組み合わせた最先端技術の統合により解決した。都市型再開発のプロットタイプとなるもので普及賞に値する。

# 第16回(2015年)日本免震構造協会賞募集

一般社団法人日本免震構造協会表彰規程に従って、下記のとおり第16回(2015年)日本免震構造協会賞の候補者を募集いたします。会員及び一般の方々の積極的な応募と推薦をお待ちしております。なお、ここでの表彰対象には、制振構造を含めることとします。また、作品賞は、2014年7月末日以前に竣工した建築物で、審査のための内部視察が可能な建築物を対象といたします。

なお、表彰規程第3条4の普及賞の具体的な評価項目を下記に示します。

地域・機能・形態等で初めての実現、周辺技術の開発、多数の実現、PR活動の実践、明確な効果の確認、普及のための環境整備など

●応募締切日 応募申込 2014年8月10日  
(FAX可)

書類提出 2014年9月1日

●表彰式 2015年6月

一般社団法人日本免震構造協会通常総会後

●一般社団法人日本免震構造協会表彰委員会

委員長 川口健一

委員 安達洋 丑場英温 篠崎淳

細澤治 真部保良 森高英夫

渡邊眞理

## 一般社団法人日本免震構造協会表彰規程

平成12年6月15日制定

### (目的)

**第1条** この規程は、一般社団法人日本免震構造協会(以下「協会」という。)の表彰について必要な事項を定め、免震構造等の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した個人、法人及び団体に対して表彰することを目的とする。

### (表彰の種類)

**第2条** 表彰は、功労賞、技術賞、作品賞及び普及賞の4種類に分けて行う。

### (表彰の対象)

**第3条** 功労賞は、多年にわたり免震構造等の適正な普及発展に功績が顕著な個人に贈る。

2 技術賞は、免震建築物等の設計、施工及びこれらに係る装置等に関する技術としての優れた成果を上げた個人、法人及び団体に贈る。

3 作品賞は、免震構造等の特質を反映した、優れた建築物の実現に携わった個人、法人及び団体に贈る。

4 普及賞は、免震建築物・免震啓発活動・免震に係わる装置等により免震構造等の普及に貢献した個人、法人及び団体に贈る。

### (表彰)

**第4条** 功労賞、技術賞、作品賞及び普及賞には表彰状と副賞を贈る。

2 表彰の時期は、原則として、協会の通常総会時とする。

### (応募の方法)

**第5条** 協会会長(以下「会長」という。)は、毎年日本免震構造協会賞応募要領を定め、候補者を募集する。

2 応募は、自薦又は他薦のいずれでも良い。

### (表彰委員会)

**第6条** 日本免震構造協会賞の審査は、表彰委員会(以下「委員会」という。)が行う。

2 委員長及び委員は、理事会の同意を経て、会長が委嘱する。

3 委員会には、委員長の指名により副委員長1名を置くことがある。副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故ある時は、その職務を代行する。

4 委員会は、委員長及び副委員長を含め、8名以内で構成する。

5 委員の任期は1期2年とする。ただし、再任を妨げないが連続2期までとする。

6 委員長は、必要に応じ専門委員あるいは専門委員会を置くことができる。

7 委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

### (受賞者の決定)

**第7条** 各賞受賞者を、委員会が選考し、会長が決定する。

### (規程の改廃)

**第8条** この規程の改廃は、理事会の議決による。

### (細則)

**第9条** この規程を実施するために必要な事項については、別に定める。

### 附則(最終改正)

この規程は、平成22年5月14日から施行する。

応募申込先及び応募に関する問合せ先

一般社団法人日本免震構造協会・事務局

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18

JIA館2階

TEL 03-5775-5432 FAX 03-5775-5434

# 日本免震構造協会表彰実績（第1回～第14回）

## 1. 第1回<2000年6月> 2件

### 功労賞

東京電機大学名誉教授 中野清司  
 (建設省建築研究所長、日本免震構造協会長などを歴  
 任し、免震構造の普及発展、日本免震構造協会の発展  
 に尽力)

### 功労賞

大日本土木株式会社 技術研究所副所長 跡部義久  
 (免震構造の普及発展、日本免震構造協会の設立に尽力)

## 2. 第2回<2001年6月> 5件

### 技術賞

1) 周期三秒前後の建物免震に関する一連の研究  
 株式会社大林組 沼本要七、橋本康則、寺村 彰、  
 奥田幸男

株式会社ブリヂストン 芳澤利和

2) 超高層免震  
 大成建設株式会社 川端一三、小室 努、木村雄一、  
 高木政美

昭和電線電纜株式会社 村松佳孝

### 作品賞

1) 稲城市立病院  
 稲城市長 石川良一

株式会社共同建築設計事務所 川島浩孝

株式会社東京建築研究所 中澤俊幸

株式会社設備工学研究所 矢萩栄一

2) 第一生命府中ビルディング  
 株式会社日本設計 中川 進、長堀嘉一

3) NSW山梨ITセンター  
 日本システムウェア株式会社 多田修人

株式会社白江建築研究所 白江龍三

株式会社ダイナミックデザイン 宮崎 光生

## 3. 第3回<2002年6月> 5件

### 技術賞

1) レトロフィット免震に関する一連の研究  
 大成建設株式会社 小山 実、鈴木裕美、佐藤啓治、  
 杉崎良一

2) (特別賞) 免震住宅の普及化への取り組み  
 株式会社一条住宅研究所 高橋武宏、吉井邦章  
 株式会社一条工務店 深堀美英、平野 茂、岡村光裕

### 作品賞

1) 興亜火災神戸センター  
 株式会社竹中工務店 福山國夫、上田博之、池田英美、  
 鍋谷めぐみ、植田光治

2) 角川書店新本社ビル  
 株式会社角川書店 角川歴彦  
 株式会社大林組 浦 進悟、中村雅友、鶴田信夫、  
 堀 長生

3) (特別賞) 沢の鶴資料館  
 沢の鶴株式会社 西村隆治  
 株式会社黒田建築設計事務所 岩井英治  
 株式会社大林組 寺村 彰、藤川喬雄、田中耕太郎

## 4. 第4回<2003年6月> 6件

### 技術賞

1) 非同調マスダンパー効果を持つ中間層免震構造の設計  
 法の開発

株式会社日建設計 村上勝英、木原碩美、小崎 均  
 東京理科大学 北村春幸

2) 風による免震部材挙動と免震建物風応答評価法  
 鹿島建設株式会社 竹中康雄、鈴木雅靖、飯塚真巨、  
 吉川和秀

株式会社ブリヂストン 鈴木重信

3) (特別賞) 慶應義塾大学理工学部 創想館  
 慶應義塾大学 吉田和夫  
 トキコ株式会社 呉服義博  
 株式会社大林組 落合正明、橋本康則

### 作品賞

1) 山口県立きららスポーツ交流公園多目的ドーム(きら  
 ら元気ドーム)

山口県 町田明德  
 株式会社日本設計 人見泰義、千鳥義典

2) 慶應義塾大学 日吉 来往舎  
 慶應義塾 安西祐一郎  
 清水建設株式会社 北村佳久、中川健太郎、吉田郁夫、  
 加藤喜久

3) (特別賞) SBSスタジオ棟  
 静岡放送株式会社 松井 純  
 大成建設株式会社 田中 勉、勝田庄二、平尾明星、  
 安井正憲

## 5. 第5回<2004年6月> 7件

### 技術賞

1) 建物上部に大型タワーを搭載する免震建物に関する一  
 連の取組み

株式会社エヌ・ティ・ティファシリティーズ  
 中野時衛、斉藤賢二、土肥 博、鈴木幹夫、余湖兼右

2) (普及賞) 村上市庁舎免震改修工事  
 村上市 佐藤 順、片野 清  
 鹿島建設株式会社 浅井 豊、石渡孝志、宮崎正敏

### 作品賞

1) 兵庫県立美術館  
 兵庫県 岸本勝也  
 安藤忠雄建築研究所 安藤忠雄  
 木村俊彦構造設計事務所 木村俊彦  
 金箱構造設計事務所 金箱温春  
 株式会社大林組 小林英博

2) プラダ ブティック青山店  
 プラダジャパン株式会社 Davide Sesia  
 株式会社竹中工務店 小塚裕一、中井政義、  
 大畑勝人、岡崎俊樹

3) セ・パルレ中央林間  
 株式会社日建ハウジングシステム 上河内宏文、  
 横山雄二

4) ポーラ美術館  
 株式会社ポーラ化粧品本舗 井上定利  
 株式会社日建設計 浅野美次、山本 裕、石田大三  
 株式会社竹中工務店 黒崎信之

5) (特別賞) 大阪市中央公会堂保存・再生  
 大阪市  
 大阪市住宅局営繕部  
 株式会社坂倉建築研究所 太田隆信  
 株式会社平田建築構造研究所 西村清志  
 株式会社東京建築研究所 山口昭一  
 清水建設株式会社 保地洋志

6. 第6回<2005年6月> 5件 株式会社日建設計 向野聡彦、小野潤一郎、木村征也
- 技術賞
- 1) 履歴減衰型免震部材の統一復元力モデルの開発  
北海道大学 菊地 優、山本祥江  
清水建設株式会社 北村佳久、猿田正明、田村和夫
  - 2) フリープラン・長寿命・高耐久を実現した日本初の超高層 PCaPC 免震建物  
鹿島建設株式会社 上野 薫、堀内一文、丸山 東、荒木修治  
小田急建設株式会社 武菱邦夫
- 作品賞
- 1) マブチモーター本社棟  
マブチモーター株式会社 亀井慎二  
日本アイ・ビー・エム株式会社 関 幸治  
株式会社日本設計 三町直志、大坪 泰  
清水建設株式会社 早川 修
  - 2) 清水建設技術研究所新本館  
清水建設株式会社 矢代嘉郎、並木康悦、神作和生、斎藤利昭、折原信吾
  - 3) 九州国立博物館  
株式会社菊竹清訓建築設計事務所 松里征男  
株式会社久米設計 千馬一哉、油田憲二  
鹿島建設株式会社 大野隆久  
大成建設株式会社 加藤幸信
7. 第7回<2006年6月> 6件
- 功労賞
- 1) 株式会社東京建築研究所 山口昭一
- 技術賞
- (特別賞) パーシャルフロート免震構造の開発
- 1) 清水建設株式会社 大山 巧、猿田正明、田崎雅晴、堀 富博、土屋宏明
- 作品賞
- 1) 慶應義塾大学(三田)南館  
慶應義塾大学 吉田和夫  
大成建設株式会社 芝山哲也、篠崎洋三、長島一郎  
株式会社日立製作所 讚井洋一
  - 2) 信濃毎日新聞社本社ビル  
信濃毎日新聞株式会社 小坂健介  
株式会社日建設計 常木康弘、長瀬 悟、中西規夫  
鹿島建設株式会社 金丸康男
  - 3) ホテル エミオン 東京ベイ  
スターツ CAM 株式会社 佐口竜也  
株式会社日本設計 小林利和、浅野一行  
前田建設工業株式会社 川述正和
  - 4) (特別賞) 国際医療福祉大学附属熱海病院  
株式会社医療福祉建築機構 佐々木邦彦  
株式会社大林組 橋本康則、奥田 寛、甲賀一也、田畑博章
8. 第8回<2007年6月> 4件
- 技術賞
- 1) 柱脚周りに限定された補強機構を用いた中間層免震レトロフィット
- 株式会社日建設計 向野聡彦、小野潤一郎、木村征也
- 作品賞
- 1) 国立新美術館  
株式会社黒川紀章建築都市設計事務所 黒川紀章  
株式会社日本設計 人見泰義、中村 伸  
鹿島建設株式会社 大野平雄  
清水建設株式会社 田中純一
  - 2) 東京建設コンサルタント新本社ビル  
株式会社東京建設コンサルタント 岸 輝親  
株式会社松田平田設計 藤森 智  
清水建設株式会社 竹内雅彦、斎藤利昭、野口高行
  - 3) 味の素グループ高輪研修センター  
味の素株式会社 坂倉一郎  
株式会社久米設計 嵐山正樹、依田博基、渡瀬利則  
大成建設株式会社 平田尚久
9. 第9回<2008年5月> 7件
- 技術賞
- 1) 灯台レンズ用免震装置  
株式会社奥村組 川井伸泰、舟山勇司、安井健治
  - 2) (特別賞) ゲージ振り子の原理に基づく新しい転がり型免震装置の開発  
東京大学 川口健一、大矢俊治  
岡部株式会社 阿部啓一、阿部純一郎、田口朝康
- 作品賞
- 1) ソニーシティ  
ソニー生命保険株式会社 於久田太郎  
株式会社プランテック総合計画事務所 大江 匡  
オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 柴田育秀  
株式会社アルファ構造デザイン事務所 海野敏夫  
清水建設株式会社 水田保雄
  - 2) 多摩美術大学図書館(八王子キャンパス)  
学校法人多摩美術大学 田淵 諭  
株式会社伊東豊雄建築設計事務所 伊東豊雄  
株式会社佐々木睦朗構造計画研究所 佐々木睦朗  
鹿島建設株式会社 青木幹雄、山口圭介
  - 3) 日産先進技術開発センター 事務棟  
日産自動車株式会社 若狭保夫  
株式会社日本設計 大坪 泰、人見泰義、西川大介  
清水建設株式会社 加藤喜久
  - 4) (特別賞) 武蔵野市防災・安全センター  
武蔵野市長 邑上守正  
株式会社日建設計 寺田隆一、長瀬 悟、中谷 聡  
大成建設株式会社 久保田清
  - 5) (特別賞) セラミックパーク MINO  
株式会社川口衛構造設計事務所 川口 衛、阿藤有士  
永田構造設計事務所 永田秀正  
株式会社磯崎新アトリエ 青木 宏  
東急建設株式会社 服部宏己

10. 第10回<2009年6月> 7件

技術賞

- 1) 日本大学理工学部駿河台校舎5号館の免震レトロフィット  
学校法人日本大学 石丸辰治  
清水建設株式会社 湯山康樹、広瀬景一、  
山岸俊之、横藤田弘
- 2) (特別賞) 高い座屈安定性を有する積層ゴム支承の力学挙動解明と実用化  
東京都市大学 研究開発チーム 西村 功、杉野 潔、  
安田 隆、佐々木頼孝、  
中村 貴

作品賞

- 1) シスメックステクノパークR&Dタワー  
株式会社竹中工務店 西崎隆氏、村上陸太、  
熊野豪人、芹澤好徳、  
石原 哲
- 2) 代々木ゼミナール本母校 代ゼミタワー  
学校法人高宮学園 高宮行男  
大成建設株式会社 輿石秀人、藤山淳司、  
欄木龍大、岩田 丈
- 3) 木津川市庁舎  
木津川市長 河井規子  
株式会社日建設 多賀謙蔵、田代靖彦、  
小松慎二  
三井住友建設株式会社 永野輝和
- 4) 慶應義塾日吉キャンパス 協生館  
学校法人慶應義塾 清家 篤  
株式会社環境デザイン研究所 仙田 満  
株式会社三菱地所設計 新居 仁、塚谷秀範  
金箱構造設計事務所 金箱温春
- 5) (啓発普及功績賞) 奥村記念館  
株式会社奥村組 木村修治、篠原 努、  
服部晃三、得田健一、  
中屋成人

11. 第11回<2010年6月> 6件

技術賞

- 1) 三越本店本館バリアフリー工事  
～「都市型免震レトロフィット」～の実現  
株式会社三越 石塚邦雄  
株式会社横河建築設計事務所 西村嗣久、古宮謙二  
清水建設株式会社 武藤 光、村井義則
- 2) 既存超高層建築の長周期・長時間地震動対策の技術開発とその実施  
大成建設株式会社 細澤 治  
明治安田生命保険相互会社 松尾憲治  
大成建設株式会社 木村雄一、須田健二、  
吉村智昭
- 3) エネルギー吸収効率を最大化するON/OFF制御型オイルダンパの開発と実用化  
鹿島建設株式会社 栗野治彦、山田俊一、  
田上 淳、清水 幹、  
松永義憲
- 4) (特別賞) 超高層免震建物用大型免震支承部材の実大性能試験の実施  
株式会社竹中工務店 嶺脇重雄、山本雅史、  
東野雅彦、濱口弘樹  
東京工業大学 和田 章

作品賞

- 1) ろうきん肥後橋ビル  
近畿労働金庫 永田憲一  
株式会社日建設 多賀謙蔵、嘉村武浩、  
加登美喜子  
株式会社銭高組 下土井節男
- 2) 株式会社前川製作所新本社ビル  
大成建設株式会社 小林治男  
株式会社前川設計一級建築士事務所 松本敏勝  
大成建設株式会社 渡辺岳彦、田中 勉、  
船原英樹

12. 第12回<2011年6月> 13件

功労賞

- 1) 須賀川勝
- 2) 中山光男

技術賞

- 1) (奨励賞) 二重構造による連結制振構造「デュアル・フレームシステム」の超高層RC造建物への展開  
株式会社大林組 西村勝尚、大住和正、  
福本義之、和田裕介

作品賞

- 1) 大林組技術研究所新本館(スーパーアクティブ制震構造)  
株式会社大林組 勝俣英雄、石川郁男、  
山中昌之、蔭山 満、  
遠藤文明
- 2) 三菱一号館  
三菱地所株式会社 村田 修  
株式会社三菱地所設計 岩井光男、山極裕史、  
小川一郎、野村和宣
- 3) 富士ゼロックスR&Dスクエア  
富士ゼロックス株式会社 丸山巖浩  
清水建設株式会社 山田祥裕、中川健太郎、  
諸星雅彦、藍原弘司

普及賞

- 杉沢 充、小幡 学、三浦義勝、鈴木哲夫、鳥居次夫、  
小山 実、猿田正明、

13. 第13回<2012年6月> 5件

特別賞

- 1) 石巻赤十字病院  
石巻赤十字病院 金田 巖  
株式会社日建設 木原碩美、染谷朝幸  
鹿島建設株式会社 室井 博、鈴木祐二

技術賞

- 1) (特別賞) 阿佐ヶ谷「知粋館」  
株式会社構造計画研究所 高橋 治、富澤徹弥  
清水建設株式会社 須原淳二、黒澤 到  
カヤバシステムマシナリー株式会社 露木保男

作品賞

- 1) ソニー株式会社 ソニーシティ大崎  
ソニー株式会社 齋藤賢吾  
株式会社日建設 山梨知彦、向野聡彦  
鹿島建設株式会社 桐生雅文  
カヤバシステムマシナリー株式会社 露木保男
- 2) オリックス本町ビル  
株式会社竹中工務店 片山丈士、島野幸弘、  
澤井祥晃、西尾和哉、  
有田 博

- 3) (特別賞) サウスゲートビルディング  
 西日本旅客鉄道株式会社 尼崎 隆  
 ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社  
 越野栄悦  
 株式会社安井建築設計事務所 保田秀樹、松本孝弘、  
 秋田 智

14. 第14回<2013年6月> 9件

技術賞

- 1) 繰返し大変形下の積層ゴム力学特性変化と地震応答評価法に関する一連の研究  
 鹿島建設株式会社 竹中康雄、近藤明洋、  
 高岡栄治、引田真規子  
 東京理科大学 北村春幸

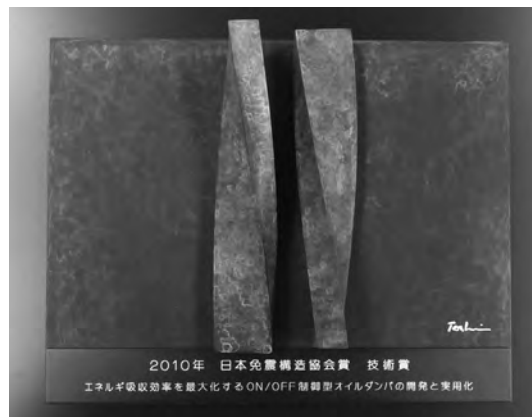
作品賞

- 1) ホテル近鉄京都駅  
 株式会社近鉄ホテルシステムズ 中山 勉  
 株式会社日建設 吉澤幹夫、白沢吉衛、  
 仁科誠治  
 株式会社奥村組 野末 潔
- 2) 溶接会館  
 社団法人日本溶接協会 宮田隆司  
 鹿島建設株式会社 前田祥三、阿部太郎、  
 村松匡太、長井 勉
- 3) シティホールプラザ「アオーレ長岡」  
 長岡市 森 民夫  
 隈研吾建築都市設計事務所 隈 研吾  
 江尻建築構造設計事務所 江尻憲泰  
 大成・福田・中越・池田共同企業体 松井幸夫

普及賞

- 1) チュリス西麻布耐震改修工事  
 2) 石燈籠の免震改修－靖國神社大灯籠－  
 3) 高崎市総合保健センター 高崎市立中央図書館  
 4) 地下空洞直上に建つ市庁舎の免震レトロフィット  
 5) ヨーロッパハウス

## 日本免震構造協会賞 楯



### 楯の制作者故片山利弘先生（1928年～2013年）の作品制作意図とプロフィール

<作品制作の意図> 相対する概念、不安と安定を、特殊な技術的表現手段により美的な、均衡空間に創生させることを目的として制作したものです（片山先生）。

<片山先生プロフィール>

1966年 ハーバード大学視覚芸術センターの招きで、アメリカ・ボストンに移住。

1990年 ハーバード大学教授・視覚技術センター館長となる。

また、最近の作品には次のようなものがある。

大原美術館ホールの石壁と石のレリーフ彫刻。協力、和泉正敏氏（1991）

三井海上本社ビルの壁 3m 高の窓象、線映と石の彫刻。和泉正敏氏と共作（1994）

JT 本社ビルホール壁画などの銅板によるレリーフ（1995）

第7回日本建築美術工芸協会（AACAA 賞、受賞）（1997）



# 一般社団法人 日本免震構造協会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-3-18 JIA館 2階  
TEL 03-5775-5432 FAX 03-5775-5434